会員欄

明治百年と協会20年

関西製鋼株式会社
社長 竹原 康夫

昨年頃から明治百年という言葉がよく使われ，新聞雑誌や本でもよく見ますが，今年がその百年に当る計算のようです。十とか百とかいう数字は一つの節としてよく使われますが，この場合百年とはただ年の数が百まで積み重ったという意味ではないことは確かです．それでは一体この言葉にこめられるべき本当の意味は何んであろうか，私には必ずしも明確ではありませんでした．

現在わが国は生産技術の面から見ますと，造船を初めとして世界で1・2位といった地位に成長した産業が，次々に増加しています．これから推せば明治元年から今日まで百年の間に，よくもここまで進歩して来たものだとの感懐も含まれているようですが，只それだけものが出来るようになったというだけでは，何か意味が弱いようで，もっと根本的な意義がありそうに感じていました．

そんな思いでいましたこの頃，現在私共がタイ国に年産12万トンの棒鋼プラントと技術を輸出し，その据付試運転などを現地の人達を指導してみて，その経験から明治百年が意味するものは何んであるか，私なりに感じとれたように思います．

話は3年ばかり前にさかのぼりますが，ある日やって来たタイの実業家から直かに，前記のプラント建設とノウハウの提供を求められました．私共には少し納得しがたいことですが，後進国は殆んど全部がといってよいほど，まだ国内に充分な市場が成熟していないにもかかわらず，小さくとも製鉄工場を持つことを熱望します．彼の場合も同様で政府よりパイオニア産業として，産業奨励法の特別認可を得ている事業だから，是非協力して欲しいとの大変な熱の入れかたでした．

ご承知のように鉄鋼の設備は，現在はコスト引下げのために幾百万トンの巨大生産力で争う国際競争時代に入っていて，今更10万トン単位の設備でもありません．それに小さくても製鋼をやるとすれば，それを保護するに足りる電力機械工業など沢山の関連工業がなくてはなりません．このことを口をすっぱくして注意し，それよりも世界的に売込み競争下にある鋼材を，安く自由に輸入した方が得ではないか，と忠告するのですが納得しません．彼をして云わしむれば日本だって明治の中頃，八幡製鉄を年産9万トンから出発せしめ，明治の末頃でもまだ25万トンに満たなかったではないか．それがなかったら今日7000万トンの日本鉄鋼業はもちろん，あるいはその上部産業はなく先進国とはなり得なかったかも知れない．私共はこれによってただ単に鉄を造るだけのものではない．と終いには大戦中タイ国は日本に蔭ながら援助した唯一の国ではないかとまでいう熱心さでした．

そんなことから遂に面倒な仕事を引受けることになり，由来建設と指導を進め漸くこの春試運転を完了し，技術指導を終了してやっと引渡しができることになりました．やっとと申しますのは予定より一年近くも遅れたことで，こちら側の準備や積出しは順調でしたのですが，先方の受入態勢が整わなかったことで，一口にいえば先方にその受入能力が，いろいろの点で未熟で不充分だったことでした．

1・2の例をあげれば，タイには機械や設備や部品などを始め，多くの工業技術用の専門用語も整っておらず，意志が交流し難くてとんでもない思い違いが生じ，業務はまず専門語作りから始めねばなりません．また今迄重工業のなかった国としてやむを得ないことですが，製鉄など重量設備に対する基本観念が乏しく，事前に地耐力・水運岸壁などについて注意しましたにもかかわらず，いざとなって見ると基礎などやり直さなければならないようなことも生じました．こんなことに突きあたってみると，かのタイ人の言草ではありませんが，一から一歩一歩積み重ねた明治百年の意味が解るように思えます．

タイ人は一般に温和で能力のある国民のようです．その中でも今度のプラント建設と操業に当るタイ人たちは，それぞれ学歴もあり非常に熱心な技術者です．しかし実

際の本当の技術が身についていないようで，日本の工場で4～5年いる技能者でも処理されることが，彼等にはなかなか困難のようでした．

このことからただの技術に限らず，学問思想などの文化的な人間の所産は，長い年期をかけなくては本物の文化的な財として，定着しないものであることを知らされました．明治百年―その百年間に元号も三度改りました．その間表相的には日本は非常に大きな変革を遂げて来ました．しかし民族と申しますか日本人われわれの中に，この百年の間一貫してうむことなく，民族の智恵能力として積み重ね鍛えて来たことが，あの敗戦の中から今日の日本を築き上げたもので，その中にこそ百年の意義は秘められているものと思いつくようになりました．

◇　◇　◇

早いものでこの協会が生れてから20年の年月がたちました．当時を振りかえって見ますと，私共をとり巻いている社会環境の変化は信じ難いほどに思えます．

敗戦の2～3年目，その頃はいわばまだ焼野原と浮浪者に象徴される時代で，一般の生活は手から口へのその日暮らしの中にあったように思います．米国の援助食料によって一応は露命はつなげたものの，インフレはとめどなく高進してヤミ市場ばかりがはびこり，まともな人々の生活は苦しく常に不安にさらされていました．毎月採算も当てもなく給料は引上げられるのですが，インフレには追いつくことはできませんでした．

ＧＨＱの占領政策は生硬できびしく，日本の経済を明治の初め頃以上にはしないのだとの噂もありました．経済の民主化を進めるということで三井三菱などの財閥を解体し，経済力集中を排除するとて日鉄や王子製紙その他重工業などの大企業を，分割して弱小化が進められていました．

元々資源のない島国で，目ぼしい生産設備は賠償指定にあった上にこんな姿では，足を地につけた生産は成り立ち難く，縮少再生産の悪循環が繰りかえされる外はありません．政府も復興金融金庫を作ったり，いわゆる傾斜生産方式を押し進めたりして，何とか苦境脱出に懸命でした．

こんな有様で国の予算などは終戦処理や目の前の忽ちのことに精一杯で，学問の研究教育にまでは手がまわらなく，学者や先生方の生活も苦しく，全くみんなが途方にくれていた頃でした．その頃便乗させて戴いた車の中で――阪大唯一つの車でした――今村先生さえ，今の世の中は前の運転手と私と給料があまり変わらない時代だと，撫然として仰ったような時代でした．

われわれがそんな社会環境にあります頃，この協会設立のアイデアが谷内与一郎さんという開業医の先生から唱えられました．谷内先生は第一次大戦後のドイツに留学し，敗戦による社会の崩壊を自分の目で見ていたことが一つの動機でもあったようです．谷内さんの意図したことは，敗戦で全てを失い残っているのは，日本人の優れた頭脳と勤勉な実行力だけである．これを結び生かすことによってわれわれの生きる道は充分残されている．というのでありました．

大阪は昔から実学というか算盤に乗る学問を尊んだところであり，しかも地元に大阪大学という世界的にも優れた頭脳をもちながら，産業界はそれを利用していない．産業界は生産や技術上の問題テーマの研究を大学に委嘱し，この結果を生産に移しそれにより得られるべき収益を，大学の研究に還元する．そのための連絡推進の窓口組織が必要である．「ということで自身は産業界の人でないにもかかわらず22年暮から大変熱心に説いて居られました。」まず大学側では今村総長先生を始めとする諸先生の，産業界では大日本塗料の根岸社長らの有力者の支持を得，また友人であった阪口興産の石松社長の協力もあって，協会は23年末に漸く設立されたと記憶しています．

創立に関係の深かった四人の方々は今はいずれも故人となられました．しかし幸に大学側の熱心なご活動と，大日本塗料の後任の池田現社長の強力な支持によって，変動の多かったこの20年をしのぎ今日に至っていますことは，昔を知るものの一人としてまことに慶びに思い，この20年が将来更に大きく実を結ぶことを祈ります．